

別記様式3

令和7年7月3日

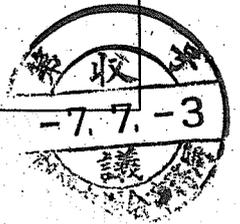
鶴岡市議会議長 様

鶴岡市議会公明党
代表 黒井 浩之

政務活動費調査・研修計画書

下記のとおり、調査・研修を計画しておりますのでお届けします。

期 日	令和7年7月29日 ~ 令和7年7月31日
参加者氏名	秋葉雄、黒井浩之
場所・会場	青森県三沢市、青森県むつ市、北海道函館市
調査・研修 項目(目的)	〈青森県三沢市〉 ・三沢キッズセンター「そらいえ」について ・英語教育の取組について 〈青森県むつ市〉 むつ市住民パスポートについて 〈北海道函館市〉 キッズプラザ・はこだてみらい館について
交通手段	・高速バス ・JR ・レンタカー ・フェリー
行 程	※詳細は別紙のとおり



令和7年度 鶴岡市議会公明党・希望のつどい 行政視察行程表

月日	行 程	備 考
7/29 (火)	<p>7:10 9:45 庄内観光物産館 ～ 仙台駅前…(徒歩)… [高速バス]</p> <p>10:17 11:26 仙台駅 ～ 八戸駅 … (移動・昼食) … [JRはやぶさ7号] [レンタカー]</p> <p>13:30～15:30 【三沢キッズセンター】 …(移動)… むつ市内(宿舎) [レンタカー]</p>	<p>【青森県三沢市】 視察項目： <u>三沢キッズセンター「そらいえ」</u> <u>について</u> <u>英語教育の取組について</u></p> <p>《連絡先》 三沢市議会事務局 〒033-8666 青森県三沢市 桜町一丁目 1-38 TEL0176-53-5111(内線 321)</p>
7/30 (水)	<p>8:30 9:00～10:30 宿舎 …(移動)… 【むつ市役所】 … [レンタカー]</p> <p>13:40～15:10 …(移動・昼食)… 大間港(移動 大間～函館) … [レンタカー] [津軽海峡フェリー大函丸]</p> <p>16:00 函館港…(移動)… 函館市内(宿舎) [タクシー]</p>	<p>【青森県むつ市】 視察項目： <u>むつ市住民パスポートに</u> <u>ついて</u></p> <p>《連絡先》 むつ市議会事務局 〒035-8686 青森県むつ市 中央一丁目 8-1 TEL0175-22-2463</p>
7/31 (木)	<p>9:30 10:00～12:00 宿舎 …(移動)… 【函館市役所・はこだてみらい館等】 … [タクシー] [徒歩]</p> <p>14:17 … (移動・昼食)… 函館駅 ～ [はこだてライナー]</p> <p>14:36/14:48 17:29 ～ 新函館北斗駅 ～ 仙台駅 …(徒歩)… [JRはやぶさ30号]</p> <p>17:50 20:20 仙台駅前 ～ 庄内観光物産館 [高速バス]</p>	<p>【北海道函館市】 視察項目： <u>キッズプラザ・はこだてみらい館</u> <u>について</u></p> <p>《連絡先》 函館市議会事務局 〒040-8666 北海道函館市 東雲町 4-13 TEL0138-21-3754</p>

係	専門員	係長	主査	主幹	局長	副議長	議長
	●●	●●●	●●●	●●	●●	●●	●●

別記様式4

長

令和7年9月19日

鶴岡市議会議長 様

鶴岡市議会公明党

代表 黒井 浩之

政務活動費調査・研修報告書

調査・研修が終了いたしましたので、報告します。

期 日	令和7年7月29日 ~ 令和7年7月31日
参加者氏名	秋葉雄、黒井浩之
場所・会場	青森県三沢市、青森県むつ市、北海道函館市
調査・研修 項目(目的)	<p>〈青森県三沢市〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三沢キッズセンター「そらいえ」について ・英語教育の取組について <p>〈青森県むつ市〉</p> <ul style="list-style-type: none"> むつ市住民パスポートについて <p>〈北海道函館市〉</p> <ul style="list-style-type: none"> キッズプラザ・はこだてみらい館について
調査・研修 の内容及び 所 見	詳細は別紙資料のとおり

※希望のつどいと同行
報告書は、分担して作成した。



視察日時	令和7年7月29日(火) 13時30分～15時30分
視察先	青森県三沢市 三沢キッズセンターそらいえ(説明:健康福祉部こども未来課他)
視察項目	三沢キッズセンター「そらいえ」について
視察概要	<p>(1) 子育て支援の全体像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども未来課内に「こども家庭センター」を設置し、児童福祉・母子保健・家庭支援を一体的に担当 ・「キッズセンターそらいえ」や「子育て支援サイト」を軸に、切れ目のない支援体制を構築 ・課題: 関連部署や施設が分散、老朽化もあり将来的な機能再編が検討課題 <p>(2) キッズセンター「そらいえ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●開設: H31年4月市民要望を受けて整備。総事業費6.1億円(国交付金が約8割) ●施設: 1階: 遊戯室、一時預かり保育室、相談室 2階: サークル支援室兼集会室、休憩スペース ●運営 <ul style="list-style-type: none"> ・遊戯室などは市直営、一時預かりは法人委託 ・利用料は無料(一時預かりは有料: 200円/時間 事前登録・予約制) ●利用状況と維持管理費 <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度 延べ利用者数: 約3.7万人 ・市外からの利用が55.5%を占める ・維持管理費: 1,890万円(歳入なし) <p>※子育てに対する経済的不安の軽減、全てのこどもが平等に発達の機会を得られ、貧困の有無にかかわらず、遊び・学び・人との関わりの場を提供することが重要という理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ●評価と課題 <ul style="list-style-type: none"> 評価: 天候を問わず利用でき、無料で気軽に遊べる点が好評 課題: 小学生向け遊び場の不足、大きい子と小さい子の混在、休日の混雑 <p>(3) 子育て支援サイト</p> <p>テーマ: すべての子育て世帯に安心と情報を</p> <ul style="list-style-type: none"> ●サイトの目的 <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世帯が必要な支援・制度・地域資源を簡単にみつけれられるプラットフォーム ・各種給付や助成、イベント、相談窓口などの情報を一元化 ・親の孤立防止や地域とのつながり促進を支援 ●特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期～子育て期の制度・相談窓口情報を網羅 ・電子申請フォームや医療機関・避難所マップにリンク

	<ul style="list-style-type: none"> ・多言語対応 (31か国、自衛隊・基地の国際性を考慮) ●利用状況・事業費 <ul style="list-style-type: none"> ・R6年度 登録世帯：979人 (市内子育て世帯の約33%、増加傾向) ・保守委託料：約79.2万円/年 (利用料無料) ●今後の展望・目指す姿 <ul style="list-style-type: none"> ・利用登録者数の増加と情報格差の解消 ・母子保健等におけるDXの推進→デジタルとアナログの融合 ・情報の見える化で安心とつながりを提供
<p>所 感 (意見・感想・ 今後の課題等)</p>	<p>三沢市は「こども家庭センター」を核に、「そらいえ」や応援サイトなど多様な拠点を整備し、子育て家庭を支える仕組みづくりを進めている点が印象的だった。そらいえは市外利用者も多く、広域的な子育て拠点として機能していることが評価できる。</p> <p>一方で、施設利用の偏りや部署の分散などにより、十分な効果が発揮しきれていない側面もある。今後は施設機能の再編やデジタル活用による情報の一元化を進め、持続的に「子育てしやすいまち」を実現していくことが求められると考える。</p> <p>またそらいえのような「天候に左右されず安心して利用できる子育て拠点」は本市でも求められており、多言語対応を備えた子育て応援サイトの運営は、本市においても活用されている子育てアプリをさらに幅広い多様な市民に利用してもらえるヒントになり得ると思う。子育て世帯が安心して暮らせる環境整備のために、今後の施策検討に大いに参考になると考える。</p>

報告者 希望のつどい 佐藤 麻里

視察日時	令和7年7月29日(火) 13時30分～15時30分
視察先	青森県三沢市 三沢キッズセンター(説明:教育委員会 学校教育課他)
視察項目	三沢市の英語教育・国際交流推進の取組について
視察概要	<p>(1) 英語教育推進の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米軍基地がある地域特性を生かし、平成元年から独自に英語教育を推進 ・小学校低学年から英語に親しむ環境を整備し、小中連携のもとで「使える英語力」の育成を目指す ・関連予算規模は約2,800万円 <p>(2) 沿革と制度の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成元年:小学校クラブ活動に外国人講師を派遣したのが始まり ・平成18年:全国に先駆けて全学年に「英語活動科」を設置 ・平成20年:文科省の特例を受け、週1コマ増の授業を導入。小1で34時間、小2以上で35時間を確保 <p>(3) 指導体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人材配置 <ul style="list-style-type: none"> ・ALT5名、市独自任用のAET1名、Englishエキスパート(EE)1名 ・英語教育コーディネーター1名、小中学校担当指導主事2名 ●教材と計画 <ul style="list-style-type: none"> ・「三沢市小中学校英語教育指導計画」を整備 ・独自教材(小学校用イラスト単語集、中学校用単語集)を作成・配付 <p>(4) 主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●授業・活動 <ul style="list-style-type: none"> ・低学年からフォニックスを導入、歌や絵本で楽しく学習 ・ネイティブスピーカーが全クラス・全時間を担当可能 ●国際交流事業 <ul style="list-style-type: none"> ・基地内小学校との交流、文化体験活動 ・小学生対象「ジュニアイングリッシュデイ」、中学生対象「イングリッシュキャンプ」 ●生徒支援 <ul style="list-style-type: none"> ・英検受験料を中1～中3まで計4回助成 ・中1全員に長文ドリルを配付 <p>(5) 教員研修と小中連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「英語教育推進委員会」を年6回開催し、情報交換やカリキュラム改善を実施 ・大学教授による講演会や授業研究会を通じて教員の指導力を向上 <p>(6) 成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●成果

	<ul style="list-style-type: none"> ・中2の英検受験率は90%超、準2級・準1級取得者も出ている ・令和9年度までに「中3の英検3級以上取得率70%」を目標に掲げる ●課題 ・小学校「楽しい英語」から中学校「文法・受験英語」へのギャップ ・オールイングリッシュ授業や即興表現力育成の実践不足 ・英語への苦手意識による未受験者約3割 ・多忙な教員の研修参加促進
<p>所 感 (意見・感想・ 今後の課題等)</p>	<p>米軍基地がある地域特性を活かし、長期的に独自の英語教育を進めてきた点が大きな特色である。低学年からの英語体験や、ネイティブによる全時間授業、国際交流プログラムなど、児童生徒が「生きた英語」に触れる機会が豊富に整備されていると感じた。また、英検受験料助成や独自教材の配付など、生徒の学習を支える仕組みも手厚い。</p> <p>一方で、小中の教育内容の接続、教員の指導力格差、英語嫌いを生む要因への対応は今後の重要課題である。国際交流や英検支援といった強みを活かしつつ、指導法の改善と教員研修の充実を継続的に図ることが、目的達成と英語教育の更なる発展につながると考える。</p> <p>さらに早期からの英語音声への慣れやフォニックスの導入、国際交流を通じた実践的学びは、多文化共生を推進していく本市においても英語教育の質を高める上で参考になる取組である。英検の受験料は年々値上がりしている状況で、それが受験控えの理由の一つになっているのではと思うので、英検受験料助成やまた独自教材の作成は、本市における児童生徒の学習意欲向上や成果の可視化に活用できる有効な施策だと感じた。</p>

報告者 希望のつどい 佐藤 麻里

視察日時	令和7年7月30日（水）9時00分～10時30分
視察先	青森県むつ市（説明：総務部情報・DX戦略課）
視察項目	むつ市住民パスポートについて
視察概要	<p>〈きっかけ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・むつ市では令和4年から18歳までの医療費無償化を始めることが決まっていた。始めるにあたって、それまで医療受給者証と言う紙のカードで医療費を無償化にしていたが、その紙を18歳までずっと持たせるのは難しいということで、そこをデジタルでできないかと言う話になった。 ・令和4年から市総合経営計画が切り替わるタイミングでスマートシティを目指すのを基本にするというのを載せて、大きくデジタルに舵を切った。では何をするのかと言うことになるが、データ連携基盤、都市OSが必要。デジタルで各種サービスをつなげていく部分の中で、都市OSが必要というのがある。 <p>〈経過〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それには結構お金がかかる。福島の会津若松市の都市OSを見てきた。その時は結構お金がかかっているというのがあった。どうしようかと思っただころ、デジタルの田園都市構想交付金がちょうど始まった。 ・令和4年の5月に1回目の申請があった。その時はサービスがないとOSの補助金をつけることがないといわれてダメだった。そこは断念してもう1年間何をするか考えようと言うことで、医療受給者証のデジタル化を何とかこなしたいというところから、データ連携基盤と医療受給者証を組み合わせたサービスを展開できないかというところから始まった。 ・モデルとしたのは奥州市がちょうど住民パスポートをやり始めて、各種サービスのアプリを見せることでサービスを受けられるというのがあって、そのモデルとなる両備システムズのアプリがあった。そのアプリをベースに今の住民パスポート「むしゅば」を作り始めた。 <p>〈内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民パスポートなので、様々使える道がある。いろんなカードをその1つのアプリに取り込むことができる。医療受給者証と75歳以上の高齢者が公共交通に無料になるというのを始めた。その高齢者の無償化に使えるAGEHA（アゲハ）というカード。 ・とりあえず2つサービスがあれば何とか交付金がもらえるのではないかというところから始めた。いろんなサービスができることを主張して交付金をいただいた。

- ・仕組みとしてはマイナンバーカードと連携して使用する。それによって精度が上がる。マイナンバーカードで認証してもらうことで初めて市民と認証してもらう。そのことでいろんなサービスが展開できる。
- ・デジタルアプリ x ID (クロスID)。マイナンバーカードをスマホに当てることで、マイナンバーカード情報を取得しつつ住民パスポート内に取り込んで、住民だというのがわかって75歳以上だったら自動的にアゲハと言うバスの無料乗車証が表示される。
- ・また医療受給者証に関しては、お母さんお父さんはマイナンバーカードを見せることで本人確認ができて、あらかじめ渡されている紙の医療受給者証の受給者番号を入力することで、そこのご家族の受給者番号が取り込めると言うことになった。それを病院に持っていくとバーコードが表示されてそのバーコードを読んでもらえれば、いちいち紙を持っていかなくて良い。スマホがマイナンバーカードと医療受給者証の代わりになる。
- ・最初にクロスID認証をして異動受給者番号を入力する。それを入れれば、昔の資格管理と突合をして、オーケーであれば、次の日からサービスが利用できる

〈事業経費〉

- ・事業内容と予算の内訳。アプリの導入費が44,000千円。都市OSが108,900千円。医療機関のバーコードリーダーは今どこにも電子カルテのパソコンがあるので、そのパソコンにつないでもらう保険証の番号と医療機関の情報を取得することができる。
- ・維持費保守料8,819千円。OSの保守料が9,073千円。アマゾンのウェブサービス(AWS)上に展開をしているので利用料が6,776千円。総額で200,000千円を超える。
- ・スマートシティをするためにはデータ連携基盤が必要。今デジタル庁からは連携基盤を作るのは各県で1つにしてくださいと言われていた。当時全国で普及させたいから都市OSの補助金をつけるという話だったが、最近は各県1つにしてくださいということで、青森ではうちのシステムを使いたいところはありますかと聞いているが、どこも使いたいという声はない。
- ・データ連携基盤は個人情報を加工してパーソナルデータと言う形にしてAWS上に展開をして様々なサービスに利用できると言う仕組み。これは市町村にはものすごく必要。個人情報を使った情報を住民に提供するために必要。でも県になると住民のためにという部分が希薄になるので、各県1つでと言われるとなかなか動きが悪い。ただ県でデータ連携基盤を運用している大阪とか福井県は、府県で基盤を作って市町村に使

わせていると言う仕組みを取っている。

(むしゅば)

- ・医療受給者証対象者が6000人。2年に1回更新する時期が来る。その時に「むちゅば」を入れてもらうようお知らせしている。医療受給者証を更新の時に。少しずつ増やしているのが実情。今慣れているものもあるので、少しずつ広めていく。チラシを作って配布もしている。
- ・住民パスポートの基本サービスを作った。どういうものかと言うと、クロスIDでマイナンバーカードで個人認証してもらえれば、その利用者が「あなた」ということでわかるので、「あなた」に向けて様々なお知らせが来る。
- ・今いるところから1番近い避難所へのルートを教えてくれる。
- ・雪かきが来ない時に除雪車が今どこにいるかわかる。
- ・道路陥没の写真を撮って市に教えるレポート投稿と言う機能がある。
- ・イベントカレンダーとしてごみ収集を教えてくれる。「むちゅば」を入れると、毎週毎週その地域のゴミの回収の前日にお知らせをする機能がある。それだけで「むちゅば」を入れている人もいる。そういうサービスを基本サービスとしている。
- ・子ども医療従事者証の表示サービス。この特徴は、これまで医療受給者証はお子さん1人に1枚だったが、家族で誰かが連れて行くことになるがお父さん、おじいちゃん、おばあちゃんいろんなケースがあるが、「むちゅば」を入れてもらえれば、最初の1名が入力したものが家族で共有できる。それを展開すると、いちいち受給者証を渡さなくても、連れて行く人のスマホにその医療受給者証が表示されるようになる、複数の人がこれを使って子供を病院に連れて行くことができる、子供も何人でも登録できるようにしている、自由に使ってもらえるようにしている。
- ・75歳以上の人はバスの無償化があるが、では75歳以下の人とはということになるが、75歳以下の方は市の市民優待カードがあつて、様々なお店や企業などのちょっとしたサービスを受けられる。
- ・これからはこの展開としては、子育て支援の何らかのイベントがある時や、子育て支援のプレミアム商品券、子育ての何らかの割引機能があるとか活用していきたい。
- ・むつ市は去年からPayPayと連携している。PayPayとPayPay APIというのをを使うと、支払いはPayPayとかそういうのを作り上げることができる状態になった。今年から様々な仕組みを検討している。
- ・今年から新たにサービスを開始したのが消防団応援サービス。消防団員が少なくなっている。若者に振り向いてもらえるように消防団応援の店

利用証を作って、これがスマホ上で表示される。すると、消防団を応援するお店、居酒屋、レストランなどいろいろなところで割引されるという仕組みを作った。消防団では募集の広報に利用している。

- ・それぞれそういう仕組みをパーソナルデータ基盤で個人認証しているいろんなサービスを展開している。これからもどんどんサービスを増やしていきたいと考えている。今バラバラに展開しているものをいずれ「むちゅば」に統合しようと考えている。
- ・むつ市はスマートシティを目指すということでDXのカテゴリーを3つ設けて、それぞれのサービスを様々展開し始めている。
- ・暮らしのDX。スマホがないと様々なサービスが享受できないので、スマホを普及させる事業も展開している。
- ・行政DXとしては、EBPM (Evidence-Based Policy Making 証拠と根拠に基づく政策立案) というのを始める。来月の初めから管理職向けにEBPMの研修を初めてデータを通した政策立案を次期総合計画には活用していくという動きがある。そのデータ利活用の推進と新たな発想、文章管理システムやペーパーレス、そういったものも進めて、様々な事務軽減を進める。2040年には職員も3分の2になって、それでも業務量はどんどん増えてくるとなれば、何らかのサービスをデジタル化していけないと間に合わない。様々な業務改革をDXで進めていく。一昨年からペーパーレス化と文書管理システム、EBPMで大きくデジタルに舵を切っている。
- ・地域DXについては、この都市OSデータ連携を使っているんなサービスを展開しているいく。その中には例えば、ボランティア活動などボランティアをやる人とやってもらいたい人のマッチングをシステム上でできないか、有償ボランティアとしてお金のやりとりもデータベース上でできないか、フロントの持ち場で情報をやりとりしてシステム上でできないのか、お金のやりとりをアプリで展開をする、個人情報とかそういう情報をデータ連携基盤でカバーして、それをフロントの持ち場で情報をやりとりをして様々なサービスをしていこうという考えがある。今福祉課で準備をしているので、2~3年後には何とか形になる。
- ・そういう様々なDXを進めることで、最後にはスマートシティと言う形になるのではないかと考えて活動を続けていく。

〔質疑応答〕

Q. レポート投稿と言う機能は、これは国交省の投稿システムを活用しているのか。

A. 基本サービスとしてできるようになっている。マイナンバーカードを

	<p>登録して位置情報をつけて送ってもらえればわかる。誰が送ったかわかるし位置情報が入る。スマホでとれば位置情報GISがついてくる。それを投稿してもらえればどの場所かわかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「むちゅば」でやっている防災情報の中に災害レポート投稿というのがある。それを押してもらえれば、避難所マップが出てきて避難所までルートが表示されてくる。自分のいるところから歩いて何分とか出てくる。これはGoogleの機能を使っている。これは自前で作るとお金がかかるが、Googleを使っただけで同然で作っている。。
<p>所 感 (意見・感想・ 今後の課題等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国の中央の動向をいち早くつかんで、モデル事業にいち早く名乗りをあげて、交付金を獲得している。まわりを見てから動くのではなく、先んじて人口減少の課題を行政のDXで乗り切ろうとしている。 ・そのために、プラットフォームの構築にいち早く取り組んで、先進事例となっている。 ・国の交付金が1県1事業という縛りがかけられてきた中で、先発の優位性により先行者利益を確保している。 ・マイナンバーカードとの一体化で情報の精度をあげて、様々なサービス展開を可能にしている。マイナンバーカードの利用には、市民の反応も様々ある中で、方向性を示して進んでいる。 ・ライドシェアについて国交省のモデル事業をはなれて、自らで地域課題を解決しようとするものであり、その姿勢は見習うべきである。 ・本市でも今からこのレベルに追いつくのは容易ではないかも知れないが、少しでも市民の利便性向上に取り組むべき課題であると考えます。

報告者 鶴岡市議会公明党 黒井 浩之

視察日時	令和7年7月31日(木) 10時～12時00分																														
視察先	北海道函館市																														
視察項目	キッズプラザ・はこだてみらい館について																														
視察概要	<p>1. 経緯等</p> <p>(1) 設置経緯</p> <p>前市長政策の一つである「駅前市有地での民間商業施設と子どもおもしろ館、キッズセンターなど公共施設合築による集客施設の建設」に基づき、施設整備の検討を開始した。</p> <p>その後、「函館市中心市街地活性化基本計画」において、低利用化・老朽化が著しい和光ビルを含む街区を一体的に再開発し、商業施設、集合住宅、子育て世代活動支援施設を整備することにより、街区の機能更新、高度利用に併せ、中心市街地全体への波及効果を生み出すとともに、多くの利用者が見込まれる子育て世代活動支援施設や、街なか居住に寄与する集合住宅を整備するため、「函館駅前若松地区第一種市街地再開発事業」を行うこととなり、中心市街地の活性化をより効果的に推進するため、当該事業で建設する再開発ビル内に当該公共施設整備することとし、平成28年10月15日に「はこだてみらい館」および「はこだてキッズプラザ」を開設した。</p> <p>(2) 整備経過</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25.3</td> <td>「函館市中心市街地活性化基本計画」を策定</td> </tr> <tr> <td>H26.5</td> <td>保留未の取得</td> </tr> <tr> <td>H26.5</td> <td>整備設計等プロポーザルにより事業者を選定 ※4者応募</td> </tr> <tr> <td>H26.8</td> <td>整備設計等業務委託</td> </tr> <tr> <td>H26.9</td> <td>整備設計等業務検討委員会を開催</td> </tr> <tr> <td>H27.7</td> <td>施設名称の決定 (はこだてみらい館、はこだてキッズプラザ)</td> </tr> <tr> <td>H27.9</td> <td>はこだてみらい館条例、函館キッズプラザ条例の制定、公布</td> </tr> <tr> <td>H27.10</td> <td>コンテンツ等政策業務委託</td> </tr> <tr> <td>H27.11</td> <td>指定管理者の募集</td> </tr> <tr> <td>H27.11</td> <td>両館の条例施行規則の制定、公布</td> </tr> <tr> <td>H28.2</td> <td>指定管理者候補者を選定</td> </tr> <tr> <td>H28.3</td> <td>指定管理者を指定</td> </tr> <tr> <td>H28.9</td> <td>保留床引き渡し</td> </tr> <tr> <td>H28.10.15</td> <td>施設オープン</td> </tr> </tbody> </table>	時期	内容	H25.3	「函館市中心市街地活性化基本計画」を策定	H26.5	保留未の取得	H26.5	整備設計等プロポーザルにより事業者を選定 ※4者応募	H26.8	整備設計等業務委託	H26.9	整備設計等業務検討委員会を開催	H27.7	施設名称の決定 (はこだてみらい館、はこだてキッズプラザ)	H27.9	はこだてみらい館条例、函館キッズプラザ条例の制定、公布	H27.10	コンテンツ等政策業務委託	H27.11	指定管理者の募集	H27.11	両館の条例施行規則の制定、公布	H28.2	指定管理者候補者を選定	H28.3	指定管理者を指定	H28.9	保留床引き渡し	H28.10.15	施設オープン
時期	内容																														
H25.3	「函館市中心市街地活性化基本計画」を策定																														
H26.5	保留未の取得																														
H26.5	整備設計等プロポーザルにより事業者を選定 ※4者応募																														
H26.8	整備設計等業務委託																														
H26.9	整備設計等業務検討委員会を開催																														
H27.7	施設名称の決定 (はこだてみらい館、はこだてキッズプラザ)																														
H27.9	はこだてみらい館条例、函館キッズプラザ条例の制定、公布																														
H27.10	コンテンツ等政策業務委託																														
H27.11	指定管理者の募集																														
H27.11	両館の条例施行規則の制定、公布																														
H28.2	指定管理者候補者を選定																														
H28.3	指定管理者を指定																														
H28.9	保留床引き渡し																														
H28.10.15	施設オープン																														

2 施設の概要

(1) 設置の目的

「はこだてみらい館」

市民及び観光客に対して先端的な技術を活用することその他の創意工夫を生かした体験及び交流の場を提供することにより、中心市街地の賑わいの創出を図ることを目的としている。

「はこだてキッズプラザ」

子ども及びその保護者に対して遊びを通じて交流する場および子育てを支援する場を提供することにより、中心市街地の賑わいの創出を図ることを目的としている。

(2) 施設概要

「再開発ビル全体」

- | | |
|---------|---|
| ① 名称 | キラリス函館 |
| ② 所在地 | 函館市若松町20番1号 |
| ③ 敷地面積 | 2,795平方メートル |
| ④ 建物延面積 | 17,777平方メートル |
| ⑤ 建物構造 | 鉄筋コンクリート造 地下1階地上16階建 |
| ⑥ 各階施設 | 地下1階～地上2階 店舗、業務
3階 はこだてみらい館
4階 はこだてキッズプラザ
5階～16階 分譲マンション |
| ⑦ 施行者 | (株) NAアーバンデベロップメント |

- | | | |
|-----------|------|----------------|
| (3) 整備事業費 | 合計 | 2,014,584,200円 |
| | 内訳 国 | 7億7千万円 |
| | 道 | 680万円 |
| | 市債 | 11億8千8百万円 |

(4) 運営主体

指定管理者：はこだてみらいプロジェクト運営グループ

代表者 (株) こどもクラブ

構成員 (株) NAアーバンデベロップメント、
ソニービーシーエル (株)

指定管理期間：1期目 H8/10.15～R3.3.31 2期目R3.4.1～R.3.31

利用料金制：導入していない

(5) 使用料

「はこだてみらい館」

		入館料		
	個人	20人以上の団体	3ヶ月券	6ヶ月券
一般生徒児童	300円	240円	900円	1,500円
(共通券)	(250円)	—	(800円)	(1,400円)

概要 次に掲げるものは無料とする

- (1) 小学校就学前の者
- (2) その他市長が特に認める者

「はこだてキッズプラザ」

		入館料	
	個人	3ヶ月券	6ヶ月券
子ども	300円	900円	1,500円
(共通券)	(250円)	(800円)	(1,400円)
保護者付添人	100円	300円	500円
(共通券)	(50円)	(200円)	(400円)

概要 次に掲げる者は無料とする

- (1) 生後6月に達しない者
- (2) その他市長が特に認める者

託児施設 子ども一人につき1時間までごとに600円
(超過時間30分までごとに600円)

(6) 管理運営費 (令和6年度)

歳入	はこだてみらい館使用料	13,448,680円
	はこだてキッズプラザ使用料	18,379,900円
	建物貸付収入	646,716円
	行政財産使用料	28,800円
	雑入	287,707円
	合計	32,791,803円

歳出	指定管理委託料	140,015,400円
	コンテンツ等関係経費	47,121,579円
	施設管理経費	21,893,610円
	その他諸経費	0円

合計 209,030,589円

3. 利用者数

「はこだてみらい館」

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
利用者数	19,687	42,990	63,134	66,075	32,651	47,529	55,675
使用料収入	7,164,580	15,678,300	12,090,590	11,964,340	5,483,780	8,416,550	11,123,950

「はこだてキッズプラザ」

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
利用者数	62,374	107,021	115,728	107,169	45,804	65,861	85,215
使用料収入	10,979,900	17,947,150	19,258,750	17,635,600	7,361,000	10,589,850	14,226,850

質疑応答

Q 子どもの遊び場整備の市全体の基本構想はなかったのか

A. 基本構想的なものはない。平成25年に函館市中心市街地活性化基本計画を策定し、国に認定してもらった際に街区の機能更新、高度利用の方針に併せて整備を進めたものであり、遊び場だけに特化した基本構想はなかった。

Q. 設置に際しての市民からの要望やご意見などはなかったか。設置されてからの市民の反応は？

A. 平成25年に北海道新幹線の開通に合わせて、駅前市有地での民間商業施設と子どもおもしろ館、キッズセンターなど公共施設合築施設の建設計画を策定したが、この計画については、色々な議論はあったが、整備設計等もプロポーザルにより事業者を選定して、現在も民間事業者指定管理していただいている。市民からの要望、意見も、指定管理事業者が、直接、市民の声を受け止めて事業運営しているが、おおむね好評であり、利用人数、利用料ともコロナ禍の時期を除けば安定していると考えている。

Q 子ども達の満足度や、保護者からの声は？

A. 指定管理事業者が民間の発想を取り入れて色々な工夫を凝らして運営してもらっている。デジタル水族館など体を動かすことが出来る企画は大変好評だ。保護者からは利用時間が無制限であること、入場料が安いことが、特に評価されている。

<p>所 感 (意見・感想・ 今後の課題等)</p>	<p>北海道新幹線函館駅前の再開発に併せて、老朽化したビルを含む街区を一体的に再開発する計画の中に子どもの遊び場整備も位置付けられ、中心市街地の活性化をより効果的に推進するために開設された施設である点が特徴的であると思った。</p> <p>人口減少、少子高齢化が急速に進展する現在の地方都市が抱える中心市街地にどうしたら賑わいを取り戻すことが出来るか、という課題に一つの回答を得たような気がした。子どもの遊び場を整備してもらいたいという子育て世代の市民の皆様からの切実な要望に、本市としても早急に答えていかなければならないが、ソライの利用料の無償化に拘る余り、人口は少なくなってもキラリと輝くまちをどのように作っていくかという、広く大きな視点から子育て推進策を再検討する必要があるのではないか。</p> <p>函館市の場合は、中心市街地に子どもの遊び場を設置して、まもなく10年を迎えることになるが、子ども達にとっては、ずっと居続けたい場所になっていて、私たちが視察した時は、津波警報が発令された翌日であり、市内の交通事情が悪いにも拘わらず、大勢の子ども達が遊んでおり、満足度も高いのではないかと考えた。</p> <p>本市においても、鉄道の利用は大きな課題であり、これからも駅の乗降客の増加はあまり見込めないとは思いますが、駅前の再開発事業と併せて図書館や子どもの遊び場を併設するなど、まちづくり構想と一体化した子育て支援の在り方についても真剣に議論しなければならないと思った次第である。</p>

報告者 鶴岡市議会公明党 秋葉 雄